

第3回小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会  
次第

日時 平成28年10月3日（月）午後6時30分から

場所 小金井市役所第二庁舎6階601会議室

【次第】

- 1 「小金井市まち・ひと・しごと総合戦略」施策の効果検証について
- 2 今年度の委員会を締めくくるに当たっての感想について
- 3 次年度委員会の開催について

【配布資料】

別紙配布資料一覧のとおり

小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会

配付資料一覧

	No.	資料名	備考
第3回 (10月3日)	5	平成28年度小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略 推進委員会 評価結果(案)	当日配付

平成28年度

小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略

推進委員会 評価結果(案)

平成28年 月

企画財政部企画政策課

# 目 次

評価結果一覧表 ..... 1

## 評価シート

### 基本目標 1 小金井の魅力を発信し、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性化につながるまち

#### 基本的方向 1 魅力が共存する小金井らしいまちづくりの推進

1 市民1人あたりの公園の整備面積.....	5
2 住居専用地域の割合.....	6
3 市街地再開発事業施行完了地区数.....	7
4 東小金井駅北口土地区画整理事業の建物移転進捗率.....	8
5 小売業の年間商品販売額.....	9
6 東小金井事業創造センター卒所予定者の市内定着率.....	10

#### 基本的方向 2 小金井の魅力を発信するシティプロモーションの推進

7 観光協会のホームページアクセス数.....	11
8 地域情報発信サイトの市ホームページへの連携.....	12
9 桜まつり等の来場者数.....	13
10 市民交流センターの稼働率.....	14
11 はけの森美術館の入館者数.....	15
基本的方向 3 多様な主体の交流、協働、連携を生み出す地域の実現	
12 市民協働支援センター準備室の相談件数.....	16
13 国際交流事業の参加人数.....	17
14 審議会等における公募市民の割合.....	18

### 基本目標 2 多様な働き方ができ、安心して結婚・出産・子育てできるまち

#### 基本的方向 1 子どもを安心して産み育てることのできる環境の充実

15 待機児童数.....	19
16 認定こども園の設置数.....	20
17 子育て支援ネットワークの参加団体数.....	21

#### 基本的方向 2 子どもの育ち・学びのための環境の充実

18 冒険遊び場開催回数.....	22
19 放課後子ども教室の推進委員会形式による実施件数.....	23
20 大学との学習支援に関する協働研究連携協力校数.....	24
21 よりよい地域社会を目指して地域貢献活動に関わろうとしている児童生徒の割合.....	25

#### 基本的方向 3 小金井らしい働き方・ライフスタイルの実現

22 しごとづくりに関する相談件数.....	26
23 審議会等への女性の参画率.....	27

2 4 男性職員の育児休業取得率.....	28
<b>基本目標 3 時代に合った地域をつくり、安全・安心に暮らせるまち</b>	
<b>基本的方向 1 誰もが不安なく暮らせる安全・安心のまちづくりの推進</b>	
2 5 住居専用地域の割合【再掲】.....	29
2 6 高齢者自立支援住宅改修給付事業の給付件数.....	30
2 7 C o C.o バスの利用者数.....	31
2 8 自主防災組織の数.....	32
2 9 刑法犯の認知件数.....	33
3 0 認知症サポーター数.....	34
3 1 地域密着型サービス事業所数.....	35
<b>基本的方向 2 誰もが健康で、いきいきと暮らすことのできる地域の実現</b>	
3 2 小金井さくら体操の参加者数.....	36
3 3 65歳健康寿命の延伸.....	37
3 4 スポーツ教室・スポーツ大会の参加者数.....	38
3 5 高齢者いきいき活動講座参加率.....	39
<b>基本的方向 3 生活を豊かにする地域のふれあい、つながりの醸成</b>	
3 6 ボランティアセミナー参加者数.....	40
3 7 図書館における住民1人当たり図書貸出冊数.....	41
3 8 公民館の平均稼働率.....	42

## 小金井市まちづくり計画の各項目評価結果

基本目標1 小金井の魅力を発信し、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性化につながるまち

方向	番号	指標	担当課	当初値 (平成26年度)	目標値 (平成31年度)	現状値 (平成27年度)	評価
----	----	----	-----	-----------------	-----------------	-----------------	----

基本的方向1 魅力が共存する小金井らしいまちづくりの推進

1	市民1人あたりの公園の整備面積	環境政策課	6,77m <sup>2</sup>	6,84m <sup>2</sup>	6,81m <sup>2</sup> (速報値)	B
2	住居専用地域の割合	都市計画課	85.9%	維持	85.9%	A
3	市街地再開発事業施行完了地区数	まちづくり推進課	1地区	2地区	1地区	C
4	東小金井駅北口土地区画整理事業の建物移転進捗率	区画整理課	46%	100%	57%	B
5	小売業の年間商品販売額	経済課	650億円	維持	650億円	C
6	東小金井事業創造センター卒所予定者の市内定着率	経済課	—	50%	36.41%	B

基本的方向2 小金井の魅力を発信するシティプロモーションの推進

7	観光協会のホームページアクセス数	経済課	74,982件	108,000件	78,631件	B
8	地域情報発信サイトの市ホームページへの連携	情報システム課	—	拡充	—	C
9	桜まつり等の来場者数	経済課	約221,000人	380,000人	180,000人	D
10	市民交流センターの稼働率	コミュニティ文化課	84.4%	維持	86.0%	A
11	はけの森美術館の入館者数	コミュニティ文化課	5,546人	5,900人	6,464人	A

基本的方向3 多様な主体の交流、協働、連携を生み出す地域の実現

12	市民協働支援センター準備室の相談件数	コミュニティ文化課	71件	100件	115件	A
13	国際交流事業の参加人数	コミュニティ文化課	190人	293人	271人	B
14	審議会等における公募市民の割合	企画政策課	22.7%	30.0%	22.9%	B

## 小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略評価結果一覧表

### 基本目標2 多様な働き方ができ、安心して結婚・出産・子育てできるまち

方向	番号	指標	担当課	当初値 (平成26年度)	目標値 (平成31年度)	現状値 (平成27年度)	評価
----	----	----	-----	-----------------	-----------------	-----------------	----

#### 基本的方向1 子どもを安心して産み育てるこことのできる環境の充実

15	待機児童数	保育課	257人	0人	164人	B
16	認定こども園の設置数	保育課	—	1園	0園	C
17	子育て支援ネットワークの参加団体数	子育て支援課	51団体 44機関	56団体 46機関	56団体 44機関	B

#### 基本的方向2 子どもの育ち・学びのための環境の充実

18	冒険遊び場開催回数	児童青少年課	—	週5回	週5回	A
19	放課後子ども教室の推進委員会形式による実施件数	生涯学習課	9件	維持	9件	A
20	大学との学習支援に関する協働研究連携協力校数	指導室	2校	14校	2校	C
21	よりよい地域社会を目指して地域貢献活動に関わろうとしている児童生徒の割合	指導室	小学校 53.9% 中学校 39.3%	小学校 61.9% 中学校 47.3%	小学校 53.5% 中学校 35.7%	D

#### 基本的方向3 小金井らしい働き方・ライフスタイルの実現

22	しごとづくりに関する相談件数	経済課	—	100件	128件	A
23	審議会等への女性の参画率	企画政策課 (男女共同参画室)	34.2%	50.0%	32.2%	D
24	男性職員の育児休業取得率	職員課	0%	13%	10%	B

## 小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略評価結果一覧表

### 基本目標3 時代に合った地域をつくり、安全・安心に暮らせるまち

方向	番号	指標	担当課	当初値 (平成26年度)	目標値 (平成31年度)	現状値 (平成27年度)	評価
基本的方向1 誰もが安心なく暮らせる安全・安心のまちづくりの推進							
	25	住居専用地域の割合【再掲】	都市計画課	85.9%	維持	85.9%	A
	26	高齢者自立支援住宅改修給付事業の給付件数	介護福祉課	42件	60件	40件	D
	27	Cocoバスの利用者数	交通対策課	1,083,278人	1,161,087人	1,052,648人	D
	28	自主防災組織の数	地域安全課	27団体	30団体	27団体	C
	29	刑法犯の認知件数	地域安全課	1,070件	1,029件	1,290件	D
	30	認知症サポーター数	介護福祉課	3,031人	4,700人	4,146人	B
	31	地域密着型サービス事業所数	介護福祉課	28か所	31か所	28か所	C
基本的方向2 誰もが健康で、いきいきと暮らすことのできる地域の実現							
	32	小金井さくら体操の参加者数	介護福祉課	400人	700人	510人	B
	33	65歳健康寿命の延伸	健康課	男性 81.6歳 女性 82.5歳	延伸	男性 81.4歳 女性 82.6歳	C
	34	スポーツ教室・スポーツ大会の参加者数	生涯学習課	15,354人	20,060人	14,815人	D
	35	高齢者いきいき活動講座参加率	介護福祉課	81.0%	100%	83.0%	B
基本的方向3 生活を豊かにする地域のふれあい、つながりの醸成							
	36	ボランティアセミナー参加者数	生涯学習課	76人	160人	191人	A
	37	図書館における住民1人当たり図書貸出冊数	図書館	8.1冊	8.4冊	8.0冊	D
	38	公民館の平均稼働率	公民館	57.3%	67.3%	58.6%	B



## まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

## 【基本情報】

基本目標1	小金井の魅力を発信し、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性化につながるまち
基本的方向1	魅力が共存する小金井らしいまちづくりの推進
指標	市民1人あたりの公園の整備面積

指標の説明 市内の国都市立公園の面積合計を市民で除したもの。市民一人あたりどれくらいの公園があるかを示す指標。

## 【重要業績評価指標(KPI)】

年度	目標	結果	評価	結果の説明	次年度に向けた課題・展望	委員名 (敬称略)	各委員評価	委員理由	委員評価まとめ(率)
						渡邊	△	関係者との協議に時間がかかるので、密度の高い協議を進めるべきである。	
26年度	6.77m <sup>2</sup>					小川	△	新しい公園、安全面で要因のある公園も多いのではないか。今後は「公園」の中身、規制が問われるようになります。憩いの場、安全性の場、運動の場、安心安全等)	
27年度	6.81m <sup>2</sup> (達成値) B			公園整備に向けた事業は進捗している。 駅前公園の整備計画を作成するに当たり、 更なる周辺施設との調整が必要である。	土地区画整理事業の進捗に併せて公園を整備する。平成31年度事業終了予定。 関係機関との協議は相当な時間がかかるので、可能な限り迅速に対応することが求められる。	鴨下	△	関係者との協議に時間がかかるので、密度の高い協議を進めるべきであり、今後は公園の中身や規制が問われるようになります。(憩いの場、運動の場、遊戯の場、軽運動の場、遊戯の場、安心安全等)。	
28年度	1					橋田	△		
29年度	1					本間	△		
30年度	1					沼崎	△		
31年度	6.84m <sup>2</sup>					小宮	△		
						天野	△		
								合計	
						○	0	△	○
								×	0

## まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

## 【基本情報】

基本目標1	小金井の魅力を発信し、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性化につながるまち
基本的方向1	魅力が共存する小金井らしいまちづくりの推進
指標	住居専用地域の割合

## 【重要業績評価指標(KP)】

年度	目標	結果	評価	結果の説明	次年度に向けた課題・展望	委員評価		委員評価取りまとめ(案)
						委員名 (敬称略)	各委員評価	
26年度	85.9%				渡 遼 △ 都市計画の変更がなくても、様々なことを想定して検討をし続けるべきである。そのための協働チームの設立を望む。	小 川 △		
27年度	85.9% A			平成27年度は、用途地域等の都市計画の変更の予定はないため、住居専用地域の割合の変更もなかった。	松 本 △ 「都市計画」の在り方に左右される指標を目標に設定することは疑問。「基本的方針1」と「都市計画」の関係性を整理することが必要。	鷲 下 △		計画どおり進捗しているものの、都市計画の変更がなくとも、様々なことを想定して検討を続けることが望ましい。
28年度	1				橋 田 ○ 計画どおりのため。	本 間 △		
29年度	1				沼 崎 △			
30年度	1				小 宮 △			
31年度	維持				天 野 × 指標として積極的なのではない。			
合 計								
		○	1	△	7	×	1	

## まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

## 【基本情報】

基本目標1	小金井の魅力を発信し、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性化につながるまち
基本的方向1	魅力が共存する小金井らしいまちづくりの推進
指標	市街地再開発事業実施完了地区数

## 【重要業績評価指標(KPI)】

年度	目標	結果	評価	結果の説明	次年度に向けての課題・展望		委員会評議	委員会評議 各委員理由	委員会評議 まとめ(案)
					委員会評議 (該体組)	各委員評議			
26年度	1地区						渡邊 ○	市役所の立場からC評議のようだが、結果、次年度に向けての課題・展望の取り組みは素晴らしい。	
27年度	1地区			武蔵小金井駅南口では平成27年9月5日に東京都から認可を受けた武蔵小金井駅南口第2地区市街地再開発組合が設立され、平成31年度の建築工事完了に向けて着実に事業推進している。また、同駅北口では、地権者の方々が中心となって、平成27年4月に武蔵小金井駅北口駅前地区市街地再開発準備組合を設立し、事業の内容等について検討を行っている。これらに対して、市は、事業進捗に応じて要綱等に基づく支援等を行ってきた。	C		鴨下 △	北口開発が進捗することを期待したい。(駅前に複数金融機関の窓口、ATM設置できらうが...)	
28年度	1						橋田 △	本間 △	結果としては、目標に到達していないためC評議となっているが、次年度に向けての課題・展望の取組に開しては、おおむね順調に推移している。
29年度	1						沼崎 △		
30年度	1						小宮 △		
31年度	2地区						天野 △		
合計									
					○	△	△	△	○

## まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

## 【基本情報】

基本目標1	小金井の魅力を発信し、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性化につながるまち
基本的方向1	魅力が共存する小金井らしいまちづくりの推進
指標	東小金井駅北口土地区画整理事業の建物移転進捗率

## 【重要業績評価指標(KPI)】

年度	目標	結果	評価	結果の説明	次年度に向けての課題・展望	委員評価		委員評価取りまとめ(案)
						委員名 (敬称略)	各委員評価	
26年度	46%				渡邊 ○ 困難な課題であろうが、結果、次年度に向けての課題・展望の取り組みは要素らしい。	渡邊 ○	○	
27年度	57%	B			現状、目標を達成しているため、おおむね順調に進歩している。困難な課題もあると思われるが、平成31年度の目標値である100%に向けて課題を明確に整理し、事業に取り組まれたい。	小川 △	△	
28年度	1				年度内に予定している建物の移転を確実に完了させることに加え、駅前の大型物件の移転に向けたスケジュールを調整し、早期に着手できるよう権利者と交渉するなど共に移転同棲後は権利者が通常な移転できるよう連絡を密に取りながら着実な執行を行うことが重要である。また、困難地権者に対する移転に応じてもらえるよう、積極的に接觸を図る必要がある。	松本 ○	○ 努力は評価できる。	
29年度	1				困難地権者の割合がどの程度存在しているか不明だが、このベースでは平成31年度100%達成が難しいのではないか。ここまで取り組んできた中での課題を明確にし、次年度以降の対策を練つていく必要がある。	鷺下 △	△	
30年度	1				小宮 △	△		
31年度	100%				天野 △	△		
合計								
		○	3	△	5	×	1	

## まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

## 【基本情報】

基本目標1	小金井の魅力を発信し、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性化につながるまち 基本的方向1 魅力が共存する小金井らしいまちづくりの推進
指標	小売業の年間商品販売額 指標の説明 市内小売業の年間商品販売額(経済センサス活動調査)

## 【重要業績評価指標(KPI)】

年度	目標	結果	評価	結果の説明	次年度に向けての課題・展望		委員名 (敬称略)	各委員評価	各委員理由	委員評価 取りまとめ(案)
					渡邊	○				
26年度	650億円						渡邊	○	中間支援組織の協働はキーポイントであり、その具体化が急務である。 これがいまいちづくりフェのような市民懇談会などを活用し具現化を図る。 後方支援であることから主体的な目標設定にないままいつと書えようが、商工会や商店会と調整して元気の出る目標を掲げてはどうか。	
27年度	650億円	C		直近(平成24年経済センサス活動調査)の指標結果は650億円であり、次回の調査は平成28年6月1日現在、平成29年5月から順次公表されるところである。取組としては、商工会や商店会の取組(各種相談事業、イベント実施、施設整備等)に対し、補助金交付や情報提供、広報等の支援を行っている。			小川	×		
							松本	△	市内小売業の実態を踏まえつつ、支援組織との協働や市民懇談会など、より活動の具現化などを図る必要がある。	
							鷲下	△		
							橋田	△		
							本間	△		
							沼崎	△	実態を捉えるということは意識しておいたほうがよいと思います。どこで売れていているか、何が売れているか、誰が購入しているか等。	
							小宮	△		
							天野	△		
									合計	
							○	△	△	
28年度	1									
29年度	1									
30年度	1									
31年度	維持									

## まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

## 【基本情報】

基本目標1	小金井の魅力を発信し、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性化につながるまち 【基本的方向】魅力が「共存する小金井らしいまちづくりの推進
指標	東小金井事業創造センター卒所予定者の市内定着率 指標の説明 センター卒所者のうち、引き続き市内で事業実施する事業者の割合

## 【重要業績評価指標(KPI)】

年	目標	結果	評価	結果の説明	次年度に向けての課題・展望			委員会評議 (委員会評議)	各委員評議面	各委員理由	委員会評議まとめ(案)
					委員名 (敬称略)	各委員評議面	各委員理由				
26年度	-				渡 遼	△	センター卒所者の市内定着はこの戦略において重要な要素であり、更なる工夫を凝らして欲しい。				適切な「課題・展望」認識のもと、実施されている。センター卒所者の市内定着率は総合戦略において重要な目標であるため、更なる工夫を凝らして増加する取組を行ってべきであるという意見がある。
27年度	34.61%	B		H26～H27年度の2年間の卒所者のうち、市内で引き続き事業実施する事業者の割合は34.61%となつた(H27年単年度では40%)。評議について、26年度は目標数値がないことから、到達はしていないが取組は推進しているという観点からBとしている。具体的な取組として、卒所の際、指定管理者により、必要に応じ市内空き物件等の紹介を行っている。 また、市では、センター卒所者が市内においてしごとを獲得することにより定着していくことを目指して、しごとづくり機運の醸成等やマッチングイベント、定着先モデル構築事業等緊急支援金地方創生先行型「しごとづくり事業」を行つた(国交付金、地域活性化・地域住民等緊急支援金地方創生先行型「しごとづくり事業」)。	小川	△	適切な「課題・展望」認識の内容などを公開してはどうか。				一方、入居者の市内定着に固執する必要はないのではないか、指標に係る目標達成に向け、企画部門・都市建設部門等との連携強化を進めるべきである。
28年度	1				沼 崎	○	数字としては悲観するほどではない。 入居者のニーズは様々であるので、市内定着に固執する必要はないといふべきである。しかし、入居者へのアプローチは定期的に行い、地域内との連携で求めているものは把握しておきたい。				
29年度	1				小 宮	△					
30年度	50%				天 野	△					
								合計	○ 2 △ 7 × 0		

## まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

## 【基本情報】

基本目標1	小金井の魅力を発信し、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性化につながるまち
基本的方針2	小金井の魅力を発信するシティプロモーションの推進
指標 観光協会のホームページアクセス数	担当課 経済課
指標の説明 小金井市観光協会(現:一般社団法人小金井市観光まちおこし協会)ホームページのアクセス数(セッション数)	

## 【重要業績評価指標(KPI)】

	目標	結果	評価	結果の説明	次年度に向けての課題・展望	委員評価		委員評価まとめ(案)
						委員名 (敬称略)	各委員評価	
26年度	74,982件				渡邊 △ 情報インターネットは毎日は多様に進歩している。その活用者は若者が多い。 専門家には異なる活躍を期待したい。	渡邊 △	△	
27年度	78,631件	B		イベントの内容やフェイスブックの充実を図ったことでアクセス数の増加につながったと思われる。	平成28年4月に小金井市観光協会は法人化し、中間支援組織としての役割も担つた。一般社団法人小金井市観光まちおこし協会法人化した。ホームページ更新を中心に行う人材も配置したことから、異なる内容の充実。アクセス数の増加が期待できる。	小川 △	△	HPはよく作られていると思われるが、5年後の目標として300セッション/日は達成すべきないか?
28年度	1				平成31年度の目標を達成するために、市内外の方にも認識していただけでなく、在住者だけではなく、市内外の方にも認識していただか必要がある。ホームページへのアクセス数を来場にせひつなげていただきたい。	松本 △	△	
29年度	1				橋田 ○ 増加したのはいいと思う。	橋田 ○	○	
30年度	1				具体的な戦略が必要。	本間 ×	×	
31年度	108,000件				市内在住者だけでなく、市外在住者にも認知してもらわないと目標達成は難しいと思う。近隣自治体との広域連携も意識していくべきである。	沼崎 ○	○	
					小宮 △ 体制強化後に期待したい。	小宮 △	△	
					天野 △ 合計	天野 △	△	1
					○ 3 △ 5 × 1	○ 3 △ 5 × 1	△	

## まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

## 【基本情報】

基本目標1	小金井の魅力を発信し、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性化につながるまち
基本的方向2	小金井の魅力を発信するシティプロモーションの推進
指標	地域情報発信サイトの市ホームページへの連携

指標の説明 市ホームページ内における市に関する情報を発信している他団体へのリンク数

## 【重要業績評価指標(KPI)】

年度	目標	結果	評価	結果の説明	次年度に向けての課題・展望		委員会評価	委員会理由	委員会評価まとめ(案)
					委員会名 (敬称略)	各委員評価			
26年度	-				渡邊	△	ホームページは市の「顔」である。デザイン性と機能性に優れた自治体を運営するホームページを持つ美しい、そのために市内にある大字幹門との連携が効果的である。		
27年度	-				小川	△			
					松本	△	5年をかけて普及(努力を投下)すべき課題か疑問。市HPの充実と使い勝手改善が有効と思われる。市長の発言も増やすべき。		
					鷲下	×	他の団体ドリンクは理解できるが、全体的にPDFと混在しておりわかりづらい。		
					橋田	×	具体的な目標がないため評価が難しい。		
					本間	△			
					沼崎	×	具体的な策が見えないため。		
					小宮	△			
					天野	△	適正に行なうべき。		
					合計				
					○	0	△	6	×
									3
28年度	1								
29年度	1								
30年度	1								
31年度	地元								

評価シート(取りまとめ)

基本目標1	小金井の魅力を発信し、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性化につながるまち		
基本的方針2	小金井の魅力を発信するシティプロモーションの推進		
指標	桜まつり等の来場者数	担当課	経済課
指標の説明	桜まつり・阿波おどり大会・お月見のつどいの来場者数の合計		

報 喜 情

目標	結果	評価	結果の説明	次年度に向けての課題・展望		委員評価
				委員名 (敬称略)	各委員評価	
26年度	満足(60点)					
27年度	1 180,000人	D	観光協会が実施するお月見のつどいは、市のイベントを同会場で行うことで来場者数を増やしたが、桜まつりは天候等に重まれず、来場者数が伸びなかつたため、結果に影響を及ぼしている。	渡 邊 △	イベントは天候の影響を避けて通ることはできない。一方で地域における祭りなどのイベントは地域コミュニティを作ることで「親しき」の観点から極めて重要な。福島の相馬野馬追、大阪岸和田の「だんじり」、長野の「袖柱」などの伝統あるイベントは地域の中心力になっている。小金井のイベントについてもと本格的な取り組みが必要であり、天候に左右されず目標が達成できなかつたということが無いまどいのイベントを創造すべきである。	イベントは天候の影響を避けて通ることはできない。一方で地域における祭りなどのイベントは地域コミュニティを作ることで「親しき」の観点から極めて重要な。福島の相馬野馬追、大阪岸和田の「だんじり」、長野の「袖柱」などの伝統あるイベントは地域の中心力になっている。小金井のイベントについてもと本格的な取り組みが必要であり、天候に左右されず目標が達成できなかつたということが無いまどいのイベントを創造すべきである。
28年度	1			小 川 △	担当者の大変さがとてもよくわかる。	天候の影響を避けて通ることはできないが、市外からの来場を促すための広報や新たにイベントとの連携を図るなど、天候に左右されず目標が達成できなかつたということがほどのイベントを創造するべきである。
29年度	1			松 本 △	自然の要因を排除して評価する方法を導入すればよい。余談だが、阿波踊り大会にはは徳島から特別参加でもらうことはどうか。	天候の影響を避けて通ることはできないが、市外からの来場を促すための広報や新たにイベントとの連携を図るなど、天候に左右されず目標が達成できなかつたということがほどのイベントを創造するべきである。
30年度	1			鴨 下 ×	市外からの来場を促すための広報(中央線広告やインフルエンサー)を増やし、天候に左右されるが努力していくにすぎない。	天候によるたがは仕方ない。
31年度	380,000人			橋 田 △	天候によるたがは仕方ない。	天候によるたがは仕方ない。
				橋 田 △	新たなイベントとの連携、レンタサイクルの活用などを今後向けて取り組む。	新たなイベントとの連携、レンタサイクルの活用などを今後向けて取り組む。
				本 間 △	目標が大幅に未達成であつたため。 近隣自治体との広報広報の仕組み等も考えていくといふではないか。	目標が大幅に未達成であつたため。 近隣自治体との広報広報の仕組み等も考えていくといふではないか。
				沼 崎 ×	お月見の真いで来場者数が増えた事は良かった。市外へのPRが足りなかつた。	お月見の真いで来場者数が増えた事は良かった。市外へのPRが足りなかつた。
				小 宮 △	この事が課題に挙げられているので、現時点での具体的な策があれば知りたいかった。	この事が課題に挙げられているので、現時点での具体的な策があれば知りたいかった。
				天 野 △	合 計	合 計
				○ 0	0 △ 7 x 2	○ 0 △ 7 x 2

## まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

## 【基本情報】

基本目標1	小金井の魅力を発信し、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性化につながるまち
基本的方針2	小金井の魅力を発信するシティプロモーションの推進
指標	市民交流センターの稼働率
指標の説明	市民交流センターの有効区分数における貸出区分数の割合

## 【重要業績評価指標(KPI)】

年	目標	結果	評価	結果の説明	次年度に向けての課題・展望	委員評価			委員評価取りまとめ(率)	
						委員名 (敬称略)	各委員評価	各委員理由		
26年度	84.4%				貸出区分数による稼働率をさらに高めたい。自主事業に「届いてない」「知らないなかつた」という声が多いまだあるため、広報・宣伝の強化を図る。一方、企画性、話題性の高い主催事業には、市外からも多くの来場者を集めており、さらなる広報・宣伝活動により、市外広域での交流センターの文化的イメージアップに貢献することである。	渡邊	△	稼働率は評価指標として重要だが、その使われ方の質の評価(質は尺度で評価)も重要な要素である。一方、稼働率が86.0%と言うことは極めて高くない。この解消の策を考えるべきである。	委員評価取りまとめ(率)	
27年度	86.0%	A			貸館運営については、高水準を維持しており、非常に評価できる。大ホール、和室の貸出区分数による稼働率をさらに高めたい。自主事業に「届いてない」「知らないなかつた」という声が多いまだあるため、広報・宣伝の強化を図る。一方、企画性、話題性の高い主催事業には、市外からも人が集まっているのは素晴らしいと思う。	小川	△	学校が教育活動で使用する場合は、减免対象となることはできないのか。	委員評価取りまとめ(率)	
28年度	1				橋田	○	利用度高く評価。リースベースを利用している老若男女が多い。幅広くそのニーズに対応することを工夫するにとか大事。	委員評価取りまとめ(率)		
29年度	1				本間	△	施設の稼働率が高い一方、その使われ方の質の評価も重要である。どのような方々が利用されているのか中身を精査していく必要もあり、ブランド力の向上も進める必要がある。	委員評価取りまとめ(率)		
30年度	1				沼崎	○	目標達成していないため、評価したい。文化的イメージアップを勘案した開設した場合、どのような方が利用されているのかを中身を精査していく必要はあるのではないか。	委員評価取りまとめ(率)		
31年度	維持				小宮	△	天野	△	ブランド力も磨いていただきたい。	
							合計			
					○	3	△	6	×	0

## まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

## 【基本情報】

基本目標1 小金井の魅力を発信し、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性化につながるまち

基本的方向2 小金井の魅力を発信するシティプロモーションの推進

指標 [は]けの森美術館の入館者数

指標の説明 [は]けの森美術館にて開催した展覧会の観覧や、ワークショップ等に参加するために入館した方の数

小金井の魅力を発信し、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性化につながるまち	
小金井の魅力を発信するシティプロモーションの推進	
[は]けの森美術館の入館者数	

## 【重要業績評価指標(KPI)】

年	目標	結果	評価	結果の説明	次年度に向けての課題・展望		委員名 (敬称略)	各委員評価	委員評価	各委員理由	委員評価取りまとめ(案)		
					渡邊	△							
26年度	5,546人				渡邊	△	市民にはアマチュア画家が少くない。彼らの展示の機会も増やすべきであります。市民にアマチュア画家が少くない。彼らの展示の機会も増やすべきであります。市民にアマチュア画家が少くない。彼らの展示の機会も増やすべきであります。	小川	△	次年度は「森美術館」からは数日間毎に「まちなか」に「森美術館」の書版の一つと合わせて「森美術館」の工房を開設されると、来館者の多いことなどが見えるから、26年度からは企画展を年2回開催に戻しました。美術品輸送等の経費が多くかかるが、企画展と所蔵作品展との組み合せができないといと、来館者の足を運ぼうといふ気持ちを呼び起にすこしができません。助成金は毎年確実に獲得できるものではなく、不確定要素であるので、歳入確保の基盤にはなり得ない。緊急雇用創出事業も直接雇用か認められなくなり、非常勤労者数を増やす工夫が必要である。	松本	△	企画や学校の美術・情操課程と連動させ、はけの森美術館の存在価値をさらに上げることにつながる。
27年度	1. 6,454人	A		串田孫一展は、井同巡回展以外の館単独企画展としては過去最高の入館者数3,624人を記録した。これは、串田孫一の多彩な業績に負うものであり、昨年度に続き、助成金による広報活動を十分にできました。この効果である。昨年度から引き続き多くの入場者を得たことから、当館主催の展覧会への期待度は高まっていると考えられる。しかししながら、助成金の活用をしながらの運営であるので、助成金の期待に応えられる展覧会を維持していくのは、財政的に厳しいものがあると考える。	鷗下	○	地元の魅力の一つである美術館を、館として展示内容として広めていく必要があります。また、飲食の場の提供など、展覧会以外にも入館者数を増やす工夫が必要である。	橋田	△	入館者数が目標に達しても財政的に厳しい意味がない。			
28年度	1				沼崎	△		本間	△		本間以外にも何か考えていかないといふことはございませんが、入館者数は下がっていくような気がします。		
29年度	1				小宮	△		天野	△		天野以外にも何か考えていかないといふことはございませんが、入館者数は下がっていくような気がします。		
30年度	1												
31年度	5,900人												
合計													
	○	1	△		8	x			0				

## まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

## 【 基本情報】

基本目標1 基本的方針3	小金井の魅力を発信し、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性化につながるまち
指標	多様な主体の交流、協働、連携を生み出す地域の実現
指標の説明	市民協働支援センター準備室の相談件数

## 【 重要業績評価指標(KPI)】

年度	目標	結果	評価	結果の説明	次年度に向けての課題・展望	委員会評価	各委員理由	委員会評価まとめ(案)	
						委員会名 (敬称略)			
26年度	71件				現下の厳しい財政状況、小金井市新庁舎建設基本計画等、他の計画等との整合性を十分に踏まえつつ、長期的視点に立つて検討していく必要があります。市民協働支援センター準備室は、平成27年度には相談件数が115件となり、市民協働に関する各種会合、行事等に参加・協力するほか、各種コーディネート、ブログ等による情報発信等を行っている。(仮称)市民協働支援センターの整備ができるまでの間は、本準備室を活用していく。なお、福祉会館閉館に伴う活動団体相互間の協働のコーディネート、③市民協働に関する各種会合・行事等への参加・協力、④市民活動・市民協働についての情報の収集・発信、⑤市民協働の推進に向けた仕組み等の検討、⑥市民活動・団体リストの管理などを行つた。相談件数は115件あり、一定の効果を出している。	渡 邊	○	官僚の意味どおりが市民に判つてもうついている証拠であろう。市民の自己実現の場として行政の仕事のお手伝いは、単に市役所における人手不足解消と本質的に異なる。協働の理念をさらに深め、それを市民と分から合いたい。	
27年度	1115件	A		市民協働支援センターの設置は、場所的問題、財政的問題等から早急な対応は難しいものの市民協働支援センター準備室を設置し、①市民協働・市民活動についての相談、②市民活動団体等と行政のコーディネート、③市民協働に関する各種会合・行事等への参加・協力、④市民活動・市民協働についての情報の収集・発信、⑤市民協働の推進に向けた仕組み等の検討、⑥市民活動・団体リストの管理などを行つた。相談件数は115件あり、一定の効果を出している。	小 川	△	準備室の努力は評価できるものの、市民の自己実現の場として行政の仕事のお手伝いは、単に市役所にお手伝いして行政の仕事のお手伝いは、単に市役所における人手不足解消と本質的に異なる。協働の理念をさらに深め、それを市民と分から合いたい。		
28年度	1			現下の厳しい財政状況、小金井市新庁舎建設基本計画等、他の計画等との整合性を十分に踏まえつつ、長期的視点に立つて検討していく必要があります。市民協働支援センター準備室は、平成27年度には相談件数が115件となり、市民協働に関する各種会合、行事等に参加・協力するほか、各種コーディネート、ブログ等による情報発信等を行っている。(仮称)市民協働支援センターの整備ができるまでの間は、本準備室を活用していく。なお、福祉会館閉館に伴う活動団体相互間の協働のコーディネート、③市民協働に関する各種会合・行事等への参加・協力、④市民活動・市民協働についての情報の収集・発信、⑤市民協働の推進に向けた仕組み等の検討、⑥市民活動・団体リストの管理などを行つた。相談件数は115件あり、一定の効果を出している。	渡 邊	○	官僚の意味どおりが市民に判つてもうついている証拠であろう。市民の自己実現の場として行政の仕事のお手伝いは、単に市役所における人手不足解消と本質的に異なる。協働の理念をさらに深め、それを市民と分から合いたい。		
29年度	1				天 野	△	合 計		
30年度	1				○	4	△	5 × 0	
31年度	100件								

## まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

## 【基本情報】

基本目標1	小金井の魅力を発信し、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性化につながるまち
基本的方向3	多様な主体の交流、協働、連携を生み出す地域の実現
指標	国際交流事業の参加者数
指標の説明	国際交流事業に参加した人数

## 【重要業績評価指標(KPI)】

	目標	結果	評価	結果の説明	次年度に向けての課題・展望		委員名 (敬称略)	各委員評価	各委員理由	委員評価取りまとめ(案)
					委員名	各委員評価				
26年度	190人				渡 邊	△	国際交流の意義を再度深く考えてもらいたい。情報科学技術という文明の進化に伴い国際金融資本主義においてまさにグローバル化が進み金融の国境がない。国際交流の意義は、ローカルな文化的相互理解である。この意義が具体化すれば結果として国際交流事業に参加する人數は増えるであろう。また国際化で重要なことの一つは、小金井文化の世界へ発信である。小金井の魅力を日本語だけでなく、近隣諸国との言語や英語、テネン系言語などで紹介すべきである。			
27年度	1 271人	B		うどん打ち体験会＆国際交流懇親会(平成26年度42人、平成27年度39人)とこども国際交流フトサル大会(平成26年度95人、平成27年度82人)は参加者が前年から減ってしまったため、平成28年度は多くの方々に参加していただきたい。そのため、引き続き適切な経費削減について検討を定めながら、市民団体と連携して事業の充実化を予定している。その他の事業についても、引き続き適切な経費削減について検討を図っていきたい。	小 川	△	新しいテーマ。周知を図るなど広がりを図るためにひと工夫を。			
28年度	1			昨年度中止となつた事業を27年度において開催することができたため、参加者人数は増加した。	松 本	△	地元企業(料理店)など協力して国際交流を開いたところがいかど思います。			
29年度	1				鴨 下	△	そのようなイベントがあることを知らないかたが、参加人数が増加しているため。			
30年度	1				橋 田	△				
31年度	293人				本 間	△				
					沼 崎	△				
					小 宮	△				
					天 野	△				
					合計					
					○	0	△	9	x	0

## まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

## 【基本情報】

基本目標1	小金井の魅力を発信し、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性化につながるまち
基本的方針3	多様な主体の交流、協働、連携を生み出す地域の実現
指標 番議会等における公募市民の割合	担当課 企画政策課
指標の説明 番議会等における構成委員のうち、公募市民が占める割合	

## 【重要業績評価指標(KPI)】

年次	目標	結果	評価	結果の説明	次年度に向けての課題・展望		委員評価 (敬称略)	各委員評価	各委員理由	委員評価まとめ(案)
					委員評価	各委員理由				
26年度	22.7%				渡 邊	△	審議会での公募市民には限界がある。まさに個人的な意見の開示の場で有り、多くの市民の声を代表しないことが多い。自己主張の強い委員は強く主張するであろうが、いわゆる空氣を読む市民は黙るか当たり隣りのない発言をあらう。一方で公募された委員は市に対する貢献の実感がありそれはこれと見て重視したい。			
27年度	22.9%	B		公募委員の無作為抽出について、その実績を踏まえて、企画政策課内の審議会等の公募の際も試行的に実施した。今後、実施方法等を全庁に周知していく。第5期推進会議から提出された提言を受け、若者をはじめとした多様な市民参加の拡大を図る方策を庁内で検討する。市民参加推進会議での提言を実施に移した場合、評議会測定の場がないなど見直しかしつらく、不必要な制度についても残存する傾向にある。実施後のフォロー手法の検討も必要である。	小 川	△	審議会での公募市民の参加には限界がある。また市に対する貢献の実感があるとされるが、一方で公募された委員は市に対する貢献の実感があると思われる。なお、アンケートや公聴会などの併用も有用ではないか、とする意見もある。			
28年度	1				天 野	△	合 計			
29年度	1				○	0	△	9	×	0
30年度	1									
31年度	30.0%									

## まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

## 【 基本情報】

基本目標2	多様な働き方ができ、安心して結婚・出産・子育てできるまち
基本的方向1	子どもを安心して産み育てることのできる環境の充実
指標	待機児童数

## 【 重要業績評価指標(KPI)】

年次	目標	結果	評価	結果の説明	次年度に向ける課題・展望		委員会面 各委員理由	委員評価取りまとめ(案)
					委員名 (敬称略)	各委員評価		
26年度	257人				渡邊	△	この総合戦略のキープロジェクトの結果である。164人となるが、始めから無理とも思ひ申しあつた人のほうが多いかもしれない。国会で話題にすることも、国の政策も変わつたり、強力に取り組むべき課題である。	
27年度	164人	B		認可保育所、子ども・子育て支援新制度、認可保育所、子ども・子育て支援新制度で新たに創設された小規模保育事業、家庭的保育事業の開設等により定員数を増やし、待機児童数は減少したが、目標は達成しなかつた。	小川	△	待機児童の95名減少は評価できるものの、国会で話題になつた「メール」の思いを持つ人は少なくないと思われる。潜在的数を想定して評価することも、国の政策も変わつたり、強力に取り組むべき課題である。	
28年度	1				松本	○	待機児童の現状などのよがロードマップが描かれているのか等が不明だが、95名減は評価されよう。	
29年度	1				鴨下	×	保育ママや保育園そのものを増やすよりも待機児童を減らせる場所も増えてしまい。	
30年度	0人				橋田	○	着実に減少しているため。	
31年度					本間	△	入所希望者増加も想定される中、現状のベースでは達成が難しい。政策検討も含め、スケジュールを明確にしていく必要がある。	
					沼崎	×	待機児童数の減少は評価出来る。しかし、保育の質の低下が世間でも問題視されているので、この観点も考えながら検討をして欲しい。	
					小宮	△		
					天野	△		
					合計			
					○	2	△	5 × 2

## まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

## 【基本情報】

基本目標2	多様な働き方ができ、安心して結婚・出産・子育てできるまち
基本的方向1	子どもを安心して産み育てることのできる環境の充実
指標	認定こども園の設置数
指標の説明	認定こども園の設置数

## 【重要業績評価指標(KPI)】

年度	目標	結果	評価	結果の説明	次年度に向けての課題・展望		委員会評価 (参考値)	各委員評価	各委員理由	委員会評価まとめ(案)
					委員名 (敬称略)	各委員評価				
26年度	-				渡邊	○	第一歩として評価する。この一步で成功すれば、子育てママに大きな希望を与えるであろう。			
27年度	1 0園	C	△	開園を希望する運営業者からの相談を受け、これに基づき協議を重ねた結果、平成29年4月の開園に向け、取り組むことになった。	小川	×	子ども育て協議会の答申などとの関連性を十分にもたらせ実現を語るこれが重要。			
					松本	△	数字と共に質(安全性を含む。)が問われよう。			
					鴨下	△				
					橋田	○	平成29年4月に向けて取り組んでいたため。			
					本間	△	運営事業者から相談があつた内容等を共有し、行政だけで解決できない問題があれば、民間事業者とも連携して解決できるようなスキームがあるといいのではないか。			
					沼崎	△				
					小宮	△				
					天野	△				
					合計					
					○	2	△	6	x	1
28年度	1									
29年度	1									
30年度	1									
31年度	1園									

## まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

## 【基本情報】

基本目標2	多様な働き方ができ、安心して結婚・出産・子育てできるまち 基本的方向1 子どもを安心して産み育てることのできる環境の充実
指標	子育て支援ネットワークの参加団体数
指標の説明	小金井子育て・子育ち支援ネットワーク協議会の加入団体数・要保護児童対策地域協議会の参加機関数

## 【重要業績評価指標(KPI)】

年	目標	結果	評価	結果の説明	次年度に向けての課題・展望	委員評価			委員評価まとめ(案)
						委員名 (敬称略)	各委員評価	各委員理由	
26年度	51団体 44機関				「子どもの健やかな成長のためのネットワーク」 小金井子育て・子育ち支援ネットワーク協議会が定めた活動を行えるよう、引き継ぎ補助金を交付する。また、市内の団体加入促進を始め、活動の広報等によるPRを行っていく。今後、団体の加入促進にあたり取組を行つたる事業運営を行つ必要があり、自立運営のための仕組み作りの支援が課題である。	渡邊 ○	ネットワーク協議会の参加数だけで評価すべきではない、そこで増加率で評価すべきで、小金井はこの取り組みで先進的であると思う。		
27年度	1 56団体 44機関	B		協議会については新たに加入団体があり、目標を達成できた。一方、要保護児童対策地域協議会については、認証保育所などの参加について検討をしているところであるが、保護児童対策地域協議会 자체が子どもを中心とした高度な個人情報を扱うため、一部に参加機関数を増やしてよいものではないこともあり、参加機関数を増やすことができず、目標を達成できなかつた。	小川 △	ネットワーク協議会の参加数だけで評価すべきで、小金井はこの取り組みで先進的であると思う。			
28年度	1				引き続き、児童虐待への組織的対応、要保護児童対策地域協議会の運営方法、内容を充実していく。	松本 ○	努力を評価したい。成果を見える化してもらえば更にいいのだが。		
29年度	1					鴨下 △	数より質が重要な中で増加しているため。		
30年度	1					橋田 ○	「団体を増やす=子育て環境の充実ではないと思うので、各団体の活動や取り組みを確認し、それらの取組を支援するほうが重要な気がする。」 「団体を増やす=子育て環境の充実ではないと思うので、各団体の活動や取り組みを確認し、それらの取り組みを支援するほうが重要な気がする。」		
31年度	56団体 46機関					本間 △	「団体を増やす=子育て環境の充実ではないと思うので、各団体の活動や取り組みを確認し、それらの取り組みを支援するほうが重要な気がする。」		
						沼崎 △			
						小宮 △			
						天野 △			
							合計		
						○ ○	3 △	6 △	x 0

まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

【 基 本 情 報 】	
基本目標2	多様な働き方ができ、安心して結婚・出産・子育てできるまち
基本的方針2	子どもの育ち・学びのための環境の充実
指標	冒険遊び場開催回数
指標の説明	一週間ににおける開催回数
	担当課 児童青少年課

## まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

## 【基本情報】

基本目標2	多様な働き方ができ、安心して結婚・出産・子育てできるまち 子どもの育ち・学びのための環境の充実		
指標	放課後子ども教室の推進委員会形式による実施件数	担当課	生涯学習課
指標の説明			

## 【重要業績評価指標(KPI)】

年度	目標	結果	評価	結果の説明		次年度に向けての課題・展望	委員評価	委員評価取りまとめ(案)
				委員名 (敬称略)	各委員評価			
26年度	9件							
27年度	1 9件	A		渡邊 ○	生涯委員会でできることには大きく評価でき る。大学だけでなく、小学校と中学校および高 等学校との連携すらできていない。十分に議 論して、学校教職員が得ためらいいあるかもしれない。一方、学校側は様々な理由からためら う場合もある。一方、学校側は様々な理由からためらいいあるかもしれない。十分に議論して、学 校教職員が得ためらいい方法やあり方を確立すべきである。全てのことで理由を挙げればYES50%、NO50%であり、ポイントは本 当に子どもたちを育むかで評価しなければならない。	生涯学習課と教育委員会との意見交換を十分に実施してもらいたい。	渡邊 ○	生涯学習課と教育委員会との意見交換を十分に実施することが重要。一方、学校側は 様々な理由からためらう場合もある。十分に議論して、両者が納得のいく方法やあり方を確立すべきである。ポイントは本当に子どもたちを育む施策がどうかであり、今後とも各教育機関との連携を行っていただきたい。
28年度	1			小川 △	生涯委員会との意見交換を十分に実施してもらいたい。	小川 △	生涯委員会との意見交換を十分に実施してもらいたい。	
29年度	1			松本 ○	努力を評価。	松本 ○	努力を評価。	
30年度	1			鴨下 △	目標を達成しているため。	鴨下 △	目標を達成しているため。	
31年度	1			橋田 ○	目標を達成しているため。	橋田 ○	目標を達成しているため。	
				本間 △		本間 △	本間 △	
				沼崎 △		沼崎 △	沼崎 △	
				小宮 △		小宮 △	小宮 △	
				天野 △		天野 △	天野 △	
					合計			
				○	3 △	6 △	× △	0 △

## まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

## 【基本情報】

基本目標2 【基本的方向2】 指標 子どもの育ち・学びのための環境の充実	多様な働き方ができる、安心して結婚・出産・子育てできるまち
指標の説明 東京学芸大学との学習支援に関する協働研究連携協力校数	担当課 指導室

## 【重要業績評価指標(KPI)】

年次	目標	結果	評価	結果の説明	次年度に向けての課題・展望	委員評価		委員評価まとめ(案)
						委員名 (敬称略)	各委員評価	
26年度	2校				学芸大学との協働支援にかかる公開することである。学校側の諸事情もあらかじめ把握する必要がある。	渡 遼	△	東京学芸大学との協働支援にかかる公開することである。学校側の諸事情もあらかじめ把握する必要がある。
27年度	1	2校	C	東京学芸大学との学習支援に関する協働研究連携協力校は、小金井第二小学校と南中学校の2校である。	東京学芸大学との学習支援に関する協働研究連携協力校を、今年度とは別の学校と新規に指定校としていく。	小川	×	参加校が2校ではないかなど異なるようになります。
28年度	1					松本	△	「子どもを育む」という視点において取り組みを強化すべきである。
29年度	1					鴨 下	△	指定校が増えたらよいと思います。
30年度	1					橋 田	×	平成31年度の目標達成は困難。
31年度	14校					沼 崎	△	東京学芸大学だけではなく、農工大等、支援学校を増やさないとなかなか協力校数が増えないのではないかと思う。
						小宮	△	
						天 野	△	
						合 計		
						○	0	△
							7	×
								2

## まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

## 【 基本情報】

基本目標2	多様な働き方でき、安心して結婚・出産・子育てできるまち
基本的方向2	子どもの育ち・学びのための環境の充実
指標	よりよい地域社会を目指して地域貢献活動に関わろうとしている児童生徒の割合
指標の説明	地域貢献活動に関わろうとしている児童生徒の割合は、ボランティア活動に取り組んだ児童生徒の割合とする。

## 【 重要業績評価指標(KPI)】

年	目標	結果	評価	結果の説明	次年度に向けての課題・展望		委員評価 (敬称略)	各委員評価	各委員理由	委員評価まとめ(案)			
					委員名	各委員評価							
26年度	小学校 53.9% 中学校 39.3%				渡 邁	△	青少年も参加したいといつ。子供たちはボランティアに取り組みたい気持ちがある。問題は学校の取り組みだと推測できる。情報を公開すべく、学校側の生活保護の観点から大きな負担が考えられるが、小金井における教育行政の哲学が問われる。子供たちの思いにO、それを実現しない学校も含む行政に×で、平均できないが中をとり△とした。これは大きな変換かもしれない。	小 川	×	学校が強く自ら行っている教育課程上の社会貢献活動もボランティア活動として根柢をあてるべきと言える。	ボランティア活動に取り組んだ児童生徒の割合の向上を目標としているが、数字を伸ばすことのみを目標にするのではなく、質・量ともに充実を図る必要がある。子どもたちに取組の意味・重要性を浸透させてからでないと、この数字は伸びないし、伸びたとしても意味のないものとなってしまうことが懸念される。		
27年度	I 小学校 53.5% 中学校 35.7%	D		「よりよい地域社会を目指して社会貢献活動に関わろうとしている児童生徒の割合」は、小学校53.5%、中学校35.7%であり、約4割から5割の児童・生徒が社会貢献活動に関わっていると言える。一回数以以上のボランティアを行った児童・生徒に対し、学校で積極的に表彰するなどして、児童・生徒のボランティア意識の向上に努める。	鴨 下	△	かなり高い数字が出ていると思うが、内容は何か? 焦ることなく質問画面から充実を図っていくことがいいのではないか。	松 本	△	表彰などでボランティアを促すのは限界がある。	表彰などでボランティア活動に取り組んでいる児童生徒の割合を伸ばすことの意味を理解して取り組んでいる児童生徒を増やさせてからでないと、この数字は伸びないし、伸びたとしても意味のないものとなってしまうことが懸念される。		
28年度	I			D 全体でボランティアに取り組んだ学校を表彰したりするなどして、経費を削減しつつ、児童・生徒のボランティア意識の向上に努めたが、目標の達成には至らなかつた。	橋 田	×	「ボランティアの意義を理解して取り組んでいる児童生徒はもっと少ないのではないか。取り組みの意味・重要性を浸透させてしまうことが多いのではないか」として、伸びたとしても意味のないものとなってしまうことが懸念される。	本 間	△	「ボランティアの意義を理解して取り組んでいる児童生徒はもっと少ないのではないか。取り組みの意味・重要性を浸透させてしまうことが多いのではないか」として、伸びたとしても意味のないものとなってしまうことが懸念される。	沼 崎	×	「ボランティアの意義を理解して取り組んでいる児童生徒は伸びない」と、この数字は伸びないし、伸びたとしても意味のないものとなってしまうことが懸念される。
29年度	I				小 宮	△		天 野	△		合 計	○ 0 △ 6 × 3	
30年度	I												
31年度	小学校 61.9% 中学校 47.3%												

## まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

## 【基本情報】

基本目標2	多様な働き方ができ、安心して結婚・出産・子育てできるまち
基本的方向3	小金井らしい働き方・ライフスタイルの実現
指標	しごとづくりに関する相談件数

## 【重要業績評価指標(KPI)】

年度	目標	結果	評価	結果の説明	次年度に向けての課題・展望		委員評価 (敬称略)	各委員評価	各委員理由	委員評価取りまとめ(案)	
					委員名	各委員評価					
26年度	-				渡 邊	○	創業支援も本懸念のキーポイントである。創業相談も重要な要素だが、創業のためのセミナーや研究会も取り組むべきである。創業のアイテム、新たに面接を生み出すアイデアなどを学ぶ定期的な機会を作りたい。ある地方では在籍出身者が地方に帰り創業する勉強会を作っている。				
27年度	1	128件	A	地域活性化・地域住民等緊急支援交付金を活用した「しごとづくり事業」において、起業家の事例紹介パンフレット作成及び配布、女性や学生を対象としたキャンペーンイベント等を実施することで、起業への機運を高め、目標値を超える相談件数を得た。	小 川	○	jcomとの連携を図り、発信していくことが必要と考える。				
28年度	1			市内で具体的なしごとおこしを図つて行くことが課題である。28年度は国交付金である地方創生加速化交付金を活用し、「しごとづくり深化・拡大事業」として、創業機運の拡大事業、教育的特性を活用したローカルノベーション事業、江戸東京をテーマにした滞在型ビジネス創出事業を実施し、市内でのしごとづくりを図ることで、多様な働き方が可能なまちの実現を目指す。	松 本	○	努力を評価。				
29年度	1			また、東小金井事業創造センターにおいても起業・創業相談を実施し、多様な働き方の支援を図る。	鴨 下	△	その後の企業件数・経営状況も気になる。				
30年度	1			今後も指導・達成のために、創業が身近に感じられる環境を整備していくということを念頭に取組を行う。	橋 田	○	目標を上回る数値のため。				
31年度	100件				本 間	△	1年間で、この相談件数は多いと思います。課題としてあげているところり、この相談者の「しごとづくり」をどう行っていかが重要なと思います。				
					沼 崎	○					
					天 野	△					
							合 計				
					○	5	△	4	×	0	

## まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

## 【 基本情報】

基本目標2	多様な働き方ができ、安心して結婚・出産・子育てできるまち 小金井らしい働き方・ライフスタイルの実現
指標	審議会等への女性の参画率
指標の説明	各年度の4月1日現在の行政委員会及び審議会等における女性委員の割合

## 【 重要業績評価指標(KPI)】

年	目標	結果	評価	結果の説明	次年度に向けての課題・展望		委員評価 (級評定)	各委員評価	各委員理由	委員評価まとめ(案)	
					委員名 (級評定)	各委員評価					
26年度	34.2%				渡 邁	△	審議会への女性参加については、行政の評価ではDになつていてるが、単純に「數値(%)」で評価すべきではない、女性が参加しない文化的な背景を考慮するべきであり、その重い文化的背景を無視して、強制的に参加率を上げることには議論が逆転している。女性参加率は結果である。				数値だけで評価をするべきではないが、女性の割合が多くなるれば意見が多様化すると考えられる。
27年度	1 32.2%	D		行政委員会及び審議会等における女性委員の登用状況調査を実施し、結果を周知するとともに、審議会等委員を選出する際には、市民参加条例の規定に基づき男女の偏りがないようにすること、公募枠以外の委員に際しても女性委員の登用促進のため、男女比率に配慮することを関係各課に働きかけているところではあるが、今年度は前年の目標値を下回る結果となつた。	小 川	×	女性の比率向上には賛成だが、機械的配分については課題があるので過村通所を第一にしたい。			少々の無理を押しても女性を入れた方が意見が多様化する。努力されることを期待。	
28年度	1				松 本	△				また、多摩地域で活躍する女性は多いため、その掘り起こしができていないことが参画率が向上しない要因の一つとも考えられるので女性の登用方法について再考する必要がある。	
29年度	1				鴨 下	△					
30年度	1				橋 田	△					
31年度	50.0%				本 間	△					
					沼 崎	×	多摩地域で活躍している女性は多いため、掘り起こしができていないことが要因ではないか。				
					小 宮	△					
					天 野	△					
					合 計						
					○	0	△	7	×	2	

## まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

## 【基本情報】

基本目標2	多様な働き方ができる、安心して結婚・出産・子育てできるまち
基本的方向3	小金井らしい働き方・ライフスタイルの実現
指標	男性職員の育児休業取得率
指標の説明	男性職員の育児休業取得率

## 【重要業績評価指標(KPI)】

年度	目標	結果	評価	結果の説明	次年度に向けての課題・展望		委員会評議	各委員理由	委員評価取りまとめ(案)	
					委員名 (敬称略)	各委員評議				
26年度	0%				渡 邊	△	男性職員の育児休業取得すべきかは、それ自体に様々な考え方がある。市の職員において10%は制度の情報不足と言うより、職員の意識の差れで有り、評価の対象とすべきではない。			
27年度	10%	B		平成27年6月に第2次小金井市職員次世代育成支援プラン(第2次小金井市特定事業主行動計画・前期行動計画(次期世帯育成))を策定し、本計画の数値目標として、職員が安心して育児休業を取得できるよう、必要な措置に努めた。	小 川	△	市役所職員の取得率を目標とするには疑問。(公務員と民間は環境・条件が違う中、市役所の男性職員の育児休業取得率を評価の対象とするべきではない。反面、行政が育児休業の取得率向上を図り、もつて社会全体に浸透するためにも職員の意識を醸成する必要はある)。			
28年度	1				松 本	△	市役所職員が達成するには疑問。(公務員と民間は環境・条件が違う)			
29年度	1				鴨 下	△				
30年度	1				橋 田	△				
31年度	13%				本 間	△	本項目については、斤舎内の取り組みなので、特に評価しようがない。			
					沼 崎	△				
					小 宮	△				
					天 野	△				
					合 計					
					○	0	△	9	×	0

## まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

【 基本情報 】			
時代に合った地域をつくり、安全・安心に暮らせるまち 誰もが不安心・安心のまちづくりの推進			
指標	住居専用地域の割合[再掲]	担当課	都市計画課

## 【 重要業績評価指標(KPI) 】

年	目標	結果	評価	結果の説明	次年度に向けての課題・展望		委員会評価 (敬称略)	各委員評価	各委員理由	委員評価まとめ(案)
					委員名	各委員評価				
26年度	85.9%				渡 遼	△	都市計画の変更がなくとも、様々なことを想定して検討を続けるべきである。そのための協働チームの設立を望む。			
27年度	85.9% A			平成27年度は、用途地域等の都市計画の変更の割合の変更がなかったため、住居専用地域の割合の変更もなかった。	小川	△	「都市計画」の在り方に左右される指標を目標に設定することは疑問。「基本的方向1」と「都市計画」の関係性を整理することが必要。			
					松 本	△	本的方針1と「都市計画」の関係性を整理することが必要。			
					鴨 下	△				
					橋 田	○	計画どおりのため。			
					本 間	△				
					沼 崎	△				
					小 宮	△				
					天 野	×	指標として積極的なものではない。			
					合 計					
					○	1	△	7	×	1
28年度	1									
29年度	1									
30年度	1									
31年度	維持									

## まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

基本目標3 時代に合った地域をつくり、安全・安心に暮らせるまち	
指標 基本的方向1 誰もが不安心なく暮らせる安全・安心のまちづくりの推進	
指標の説明 住宅改修件数の指標については、過去10年間の実績件数を見ると年度毎にばらつきがあり傾向を図ることは困難な面もあるが、今後の高齢者世帯の増加を踏みると、件数の把握は重要である。	

## 【重要業績評価指標(KPI)】

年度	目標	結果	評価	結果の説明	次年度に向けての課題・展望		委員会評価 (参考枠)	各委員評価	各委員理由	委員会評価取りまとめ(案)
					委員名	委員会評価				
26年度	42件				渡 邁	△	高齢者はやむを得ず自尊心が高い。孤高であることを望む。しっかりとした情報と権利を知らせるべきである。			
					小 川	△				
					松 本	△	目標面が控えめではないか。条件別の事例集などを配布・周知することも考えられる。			
					鴨 下	△	すでに実施しているとは思いますが、高齢者の目に留まりやすいところに広報など振り出してはいかがでしょうか。			
					橋 田	△				
					本 間	△				
					沼 崎	△				
					小 宮	△				
					天 野	△				
合計										
					○	0	△	9	×	0
27年度	40件	D		手すりの設置4件、段差解消0件、便器の洋式化3件、浴槽の取替え31件、流し・洗面台の取替え2件。高齢者が居住する住宅改修を給付し、介護の確保、行動範囲の拡大等生活の質の確保のため、実施件数に影響が生じるか、事業の継続性に向けて、今後も啓発に努める所努力だが、目標を達成できなかつた。						
28年度	1									
29年度	1									
30年度	1									
31年度	60件									

まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

基本目標3	時代に合った地域をつくり、安全・安心に暮らせるまち		
基本の方針1	誰もが不安なく暮らせる安全・安心のまちづくりの推進		
指標	Cocopaバスの利用者数	担当課	交通安全課
指標の説明	総合的見直しによる利用者数		

まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

基本目標	時代に合った地域をつくり、安全・安心に暮らせるまち		
基本的方向1	誰もが不安心なく暮らせる安全・安心のまちづくりの推進		
指標	自主防災組織の数	担当課	地域安全部
指標の説明	市内で町会・自治会等の地域組織が自主的に結成した防災組織の数		

報情本基

## まち・ひと・しごと創生戦略評価シート(取りまとめ)

基本目標3	時代に合った地域をつくり、安全・安心に暮らせるまち			
基本の方針1	誰もが不安なく暮らせる安全・安心のまちづくりの推進			
指標	刑法犯の認知件数			
指標の説明	1月から12月までの刑法犯の認知件数(警視庁発表)	担当課	地域安全課	

まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

基本目標3	時代に合った地域をつくり 安全・安心に暮らせるまち		
基本的方針1	誰もが不安全なく暮らせる安全・安心のまちづくりの推進		
指導	認知症サポーター数	担当課	介護福祉課
指導の説明	認知症サポーター養成講座受講者数		

委員評価	次年度に向けての課題・展望		
	委員名 (敬称略)	各委員評価	各委員理由
渡邊	○	取り組み自体が重要である。若者は認知症の実感がないので伸び悩むのは当然である。しかし若者でも認知症になりうるし、将来その可能性は高いので、サポートする側の臣だけではなく、自らの問題として取り組むようプログラムの微調整が必要である。	
小川	△		
松本	△	(小金井市のことではないが) 認知症自体の知識認識が十分とは言い難いのが現状。5年後4,700人目標は控えめ。	
鴨下	△		
橋田	△		
本間	△	関連団体や施設との連携を強めていく必要がある。	
沼崎	○	受講者数増加は評価できる。 この受講者に対する理解を深めてもらう取り組みも検討してはどうか。	
小宮	△		
天野	△		
合計			
○	2	△ 7 × 0	
28年度	1		
29年度	1		
30年度	1		
31年度	4,700人		
		34	

## まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

## 【基本情報】

基本目標3	時代に合った地域をつくり、安全・安心に暮らせるまち
基本的方向1	誰もが不安心なく暮らせる安全・安心のまちづくりの推進
指標 地域密着型サービス事業所数	地域密着型住宅介護、認知症対応型通所介護、地域密着型共同生活介護、認知症対応型通所介護、地域密着型特定施設入所者生活介護、賃貸小規模多機能型居宅介護、夜間対応型訪問介護、定期巡回・随時巡回・随時対応型訪問介護、地域密着型通所介護の事業所数
指標の説明 沿線駅周辺の公共交通機関利用実績(※目標数値については、平成26年度時点での既定じしたものであり、法改正により、地域密着型サービスに入居する分については含まれない)。	担当課 介護福祉課

## 【重要業績評価指標(KPI)】

年次	目標	結果	評価	結果の説明	次年度に向けての課題・展望			委員評価			委員評価取りまとめ(案)
					委員名 (敬称略)	各委員評価	各委員理由	委員名 (敬称略)	各委員評価	各委員理由	
26年度	28か所				渡 遼	△	小金井市から鶴見市に移り住み、地域密着型サービスも含め、その違いに驚いている。近隣他市のやり方から学ぶべきことが少なくない。	小 川	△	独居の高齢者を対象にまずは考えていく。	
27年度	1 29か所	C		第6期小金井市介護保険・高齢者保健福祉総合計画においては、平成27年度の施設整備の計画がなかなかつかつたため、このようないくつかない結果となつた。今後も必要なサービスの把握を行い、効率的な施設整備を行っていく必要がある。	橋 田	△	質の確保が絶対的に重要。その観点からのサブ指標が欲しい。	本 間	△	地元に創業(開設)するのは望ましくないので、事業計画整備についても検討していく必要はある。	
28年度	1				沼 崎	△	事業者をフォローアップする体制を整備していかなければ、施設整備を推進していく必要がある。	小 宮	△		
29年度	1				天 野	△					
30年度	1										
31年度	31か所										
				合 計							
				○	0	△	9	×	0		

近隣他市のやり方も参考にしつつ、地域特性に応じた必要な事業を開設・運営できるよう事業者のフォローに努力していく必要がある。

まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

担当課	介護福祉課
指標	小金井さくら体操の参加者数
指標の説明	ご当地介護予防体操「小金井さくら体操」自主グループ活動の参加者数
基本的方針2	誰もが健 康で、いきいきと暮らすことのできる地域の実現
基本目標3	時代に合った地域をつくり、安全・安心に暮らせるまち

目標	結果	評価	結果の説明	次年度に向けての課題・展望		委員評価
				委員名 (敬称略)	各委員評価	
26年度	400人		生活支援コーディネーターと連携することにより、介護予防に有効な通いの場の一つ開催会場に提示することで、実施場所と、体操自体のPRを行うことができた。さくら体操DVD24枚、セラバンド151本を有償配布し、継続的な活動に対する支援を行った。	渡 邊	○	この取り組み 자체を評価する。一氣には進まないであろうから継続することが肝要である。
27年度	510人	B	介護予防イベントを開催し、市民に対して体操を通じた介護予防の普及啓発ができた。継続的に通う参加者が多くの結果、高齢化が進む体操の参加者、リーダーとして関わるボランティアに対して定期的に、医学的根拠を持つた関係者の関与が助言が必要になっている。	小 川	△	リハビリーション病院・太陽病院・つきみの園・あんず園などなど市内は多くの施設があり、そこの専門職のかたを講師として招聘・連携・活用を考えていきたい。
28年度				松 本	○	「さくら体操」をキーとした各種展開を評価。
29年度				鴨 下	△	さくら体操の取組自体を評価する。関係機関との連携を含め、継続した活動をしていく必要がある。
30年度				橋 田	△	
31年度	700人			本 間	△	
				沼 崎	△	
				小 宮	△	
				天 野	△	
				合 計		
				○	2	△
					7	×
						0

## まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

## 【基本情報】

基本目標3	時代に合った地域をつくり、安全・安心に暮らせるまち
基本的方向2	誰もが健康で、いきいきと暮らすことのできる地域の実現
指標	65歳健診券の延長

指標の説明 65歳健診券(東京保健所長金方式)とは、65歳の人が、何らかの障害のために要介護認定を受けるまでの状態を健診と考へ、その障害のために認定を受けた時に認定を受けたために年齢を平均的に認定を受けている。その延長は、市民の健診増進の指標となる。65歳健

## 【重要業績評価指標(KPI)】

年度	目標	結果	評価	結果の説明	次年度に向けての課題・展望		委員会名 (敬称略)	各委員評価	委員会理由	委員会評価取りまとめ(案)
					委員会名 (敬称略)	各委員評価				
26年度	男性 81.6歳 女性 82.5歳				渡 邊	○				個人の健康管理は個人に属するという考え方もある。むしろこの考え方にはまともな考え方であると考える。行政としては、個人個人が自らの健康を管理することが家族を含めた他者に迷惑をかけることは認識してもらうことが重要では。
					小 川	△				
					松 本	△				必要なテーマだけ認識が共有されているとは思えない、他の要素も併せて市民全員に配布する健康手帳(都作成の「東京防災」のアイディアを借用し改良)を作成してはどうつか。
					鴨 下	△				
					橋 田	△				個人個人が自らの健康について意識できるような動きを行政はしていく必要がある。
					本 間	△				
					沼 崎	△				
					小 宮	△				
					天 野	△				
					合 計					
					○	1	△	8	×	0
28年度	1									
29年度	1									
30年度	1									
31年度	延伸									
					37					

## まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

## 【基本情報】

基本目標3	時代に合った地域をつくり、安全・安心に暮らせるまち 誰もが健康で、いきいきと暮らすことのできる地域の実現
指標	スポーツ教室・スポーツ大会の参加者数
指標の説明	スポーツ教室・スポーツ大会の参加者数

## 【重要業績評価指標(KPI)】

年	目標	結果	評価	結果の説明	次年度に向けての課題・展望	委員評価			委員評価まとめ(案)
						委員名 (敬称略)	各委員評価	各委員理由	
26年度	15,354人					渡 邁	△		スポーツは元来、自主的なものであろう。各人がその面白さや健康への効果を考えスポーツに取り組んでいる。教室や大会参加率、スポーツ全体会の回数は大きな指標ではない。行政としてはこのような指標しかないかもしれません。むしろスポーツの意義を知らせる企画を考えそれを評価すべきでは。
						小 川	△		教員の参加を前提にするのではなく、教員が加量負担にならないように教員に参加してほしい。休日の引率、児童管理などにしても、適切な賞金を支給することも考慮したい。
						松 本	○		時代的に新しいテーマ、その努力を評価したい。個人で安心安全にジョギングやウォーキングができるスペースや距離数を指標化してもらいたい。(今は車や自転車が危険、空き地の下見と説明されない状況)
						鴨 下	△		会場が駅から近いことも参加者の根拠だと重要です。
						橋 田	×		減少傾向にあるため、
						本 間	×		左記だけではなく、具体的な施策づくりを求める。
						沼 崎	×		参加者増加のために、どのような取り組みを実施してきたのか記載がないため、課題が見えてこない。
						小 宮	△		
						天 野	△		
						合 計			
						○	1	△	5 × 3
28年度	1								
29年度	1								
30年度	1								
31年度	20,060人								

## まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

【 基本情報 】		
基本目標3	時代に合った地域をつくり、安全・安心に暮らせるまち	
基本的方向3	誰もが健康で、いきいきと暮らすことのできる地域の実現	
指標 高齢者いきいき活動講座参加率		
指標の説明 各講座の募集に対する参加率を指標とすることにより、企画した内容が、会場確保を含め適切な計画の下の運営されているかや、参加する高齢者の趣味思考等が把握できる。		

年次	目標	結果	評価	結果の説明		委員評価 委員名 (敬称略) 各委員評価	委員評価 委員理由 各委員理由	委員評価取りまとめ(案)
				次年度に向けての課題・展望				
26年度	81.0%					渡 邁	△	退職すると「キヨウイク」と「キヨウヨウ」が大切である。キヨウイクは教育ではなく今日用事がある」である。その意味でこの企画は教養ではなく講座を開き、多くの高齢者に「キヨウイク」する企画を考えて欲しい。講座は講師になる年齢や年層にも広げるべきである。
27年度	83.0%	B		今後も市が委嘱した高齢者いきいき活動員の自主的な企画立案により、高齢者を中心とした講座を開催し、高齢者の生きがいへ繋げていく。平成28年度から、活動拠点どなつていた福祉社会館が使用できなくなり、活動の場の十分な確保が課題となつているため、いきいき活動員や市の創意工夫により、高齢者学習等の講座の開催を通り、高齢者の生きがいを福祉面からのサポートする。		小 川	△	高齢者の生きがい。やりがい作りの観点から、この取組は評価される。内容・テーマが重複になつてくるので、参加率だけではなく利用者の満足度の充実も図る必要がある。
28年度	1					松 本	○	努力は評価できる。(そのうえで)相対的目標と同時に絶対的目標も認識すべきではないか。もちろん内容・テーマも重要。
29年度	1					鴨 下	△	
30年度	1					橋 田	△	参加率では測れない部分が多い。
31年度	100%					本 间	△	
						沼 崎	△	
						小 宮	△	
						天 野	△	
						合 計		
						○	1	△ 8 × 0

## まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

## 【基本情報】

基本目標3	時代に合った地域をつくり、安全・安心に暮らせるまち
基本的方向3	生活を豊かにする地域のふれあい、つながりの醸成
指標	ボランティアセミナー参加者数
指標の説明	ボランティアセミナーに参加した人数

## 【重要業績評価指標(KPI)】

年	目標	結果	評価	結果の説明	次年度に向けての課題・展望	委員評価			委員評価まとめ(案)
						委員名 (敬称略)	各委員評価	各委員理由	
26年度	76人				渡 遵 ○ 素晴らしい結果である。これこそが市民ニーズに対応する企画であらう。	小 川 △			ボランティアセミナー参加者が平成26年度以上となる倍以上でござります。その他の世代でも参加できるボランティアを設定し、そこにつなげられるセミナーをしてほしいのです。
27年度	191人	A			鴨 下 △ ボランティアをする時間と体力のあるのがその世代といふこともあると思いまして、その他の世代でも参加できるボランティアを設定し、そこにつなげられることには評価できることには評価できる。今回の女性の参加者が多かつたが、今後は多様な世代を取り込んでいく方向で取り組みが求められていく。	橋 田 ○			ボランティアセミナーの内訳を見ると、40代の女性が多い。今後はもつと幅広い世代や男性、新規受講者の参加が増えるよう、内容、開催時期、開催時間を調整し、地域総掛かりで子育てに取り組む環境を作っていく。
28年度	1				本 間 △ 子育て中の成長世帯を多くとり込むように要望する。	沼 崎 ○			目標達成については評価できる。他に児童のボランティア活動への参加等、関連が深そうな事業があるため、協議会を意識した取り組みも効果的ではないだろうか。
29年度	1				小 宮 △ 目標達成は評価できるが、この人數がちゃんと維持できるよう今後も取り組んで頂きたい。	天 野 △			
30年度	1				合 計	○ 4 △ 5 × 0			
31年度	160人								

まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

基本情報	
基本目標3	時代に合った地域をつくり、安全・安心に暮らせるまち
基本の方針3	生活を豊かにする地域のふれあい、つながりの醸成
指導	図書館における住民1人当たり図書貸出冊数
指導の説明	図書貸出総冊数を小金井市人口数で除した数字
	担当課 図書館

委員評価	次年度に向けての課題・展望		結果の説明	評価	目標	結果	委員名 (敬称略)
	委員評価	各委員理由					
休館期間があつた間に図書の読み方は大きく変化している。Kindleなど電子媒体で図書が読める、紙媒体の図書の貸し出しが減少するのは当然のことであり、D評価は現状を把握していない。むしろ、紙媒体でなければ読めない図書を増やすか、コピーできないよう何らかの工夫をして電子媒体で読める図書をすべきである。	△	渡 邊	△	○	8. 1冊	26年度	
利用者のニーズに全て対応することが、サービスとは言えないでの、費用対効果を考えた視点で内容を考案すべきである。	△	小 川	△	○	0. 4冊	26年度	
市人口の減少が施設される中、0. 4冊増目標設定は疑問。むしろ、利用者が増えられる現状の改善に資する指標の導入が必要。(真井北は書架と閲覧・学習用机が混在した作り。本を探す方も机で学習する人もお互いに気を遣う。ぜひ改良を。)	△	松 本	△	○	0. 4冊	26年度	
休館期間が多いにもかわらず高い数値となっているため。	△	鴨 下	△	○	1	27年度	
現状、小金井市の図書館は、利用者・貸出冊数の制限を設けず、図書館本館で毎週水曜日～金曜日の夜間開館のサービスを行っていることについては、利用者のニーズに沿ったサービスを行っているると評価できる。平成27年8月に図書館東分室の委託運営開始もあり、今後は時代に沿ったサービスの見直しを行うことが必要である。	D	橋 田	○	○	8. 0冊	27年度	
「ビジネス支援図書館の観点を取り入れ、市として掲げているしごくりと統合していくことも検討してはどうか。」	△	本 間	△	○	1	28年度	
貸出冊数増加が目標目標の実現に繋がるイメージが湧かないため。	x	沼 崎	x	○	1	29年度	
小宮	△	小 宮	△	○	1	30年度	
天野	△	天 野	△	○	1	31年度	
合 計					1	4	1

## まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

## 【基本情報】

基本目標3	時代に合った地域をつくり、安全・安心に暮らせるまち
指標	生活を豊かにする地域のふれあい、つながりの醸成
指標の説明	公民館各館の利用時間数から、利用可能時間数を割って各館稼働率を算出し、各館稼働率の合計を公民館数で割ったものを平均稼働率とする。

## 【重要業績評価指標(KPI)】

年度	目標	結果	評価	結果の説明	次年度に向かっての課題・展望	委員評価			委員評価理由 各委員理由	委員評価取りまとめ(案)
						委員名 (敬称略)	各委員評価	各委員理由		
26年度	57.3%				渡 遵 ○	58.6%は適正数であると判断する。これ以上あげると、公民館活動の質の低下を招く。				
27年度	58.6%	B		NPO法人による事業運営により平成26年4月に開館した。市民協働の新しい形態での運営が順調に軌道に乗るよう必要な支援を行い、多くの人に利用していただき、市民の憩いの場として、生涯学習の拠点として、より一層満足度の高い社会教育施設となることを目指す。  NPO法人の専門的なスタッフにより若者コーナーを中心とした事業を展開し、自立的、連続的な利用を促すことで、新しい利用者の発掘ができた。また、ビリオバトル、百人一首大会、読み聞かせ講座等、図書館との連携による新たな発想の事業も充実し、ツイッターによる講座の案内により、新たな利用者も増えている。	小川 △ 松本 △ 鷗下 △ 橋田 △ 本間 △ 沼崎 △ 小宮 △ 天野 △	「5年で10%ポイント引き上げ目標設定方式」もいかが、個々に積み上げ施設・設備の老朽化に対応しつつ、これまで稼働率を維持しながら公民館活動の質を保ちたい。  一層満足度の高い社会教育施設とするために、利用者の内訳(新しい利用者の割合の変化)は継続して確認する必要がある。				
28年度	1				○ 1 △ 8 × 0	合計				
29年度	1									
30年度	1									
31年度	67.3%									